

令和5年度 学校関係者評価書

常葉大学附属とは幼稚園

園長 池田 美穂

1 経営の重点にかかわること

学校教育目標 心豊かでたくましい子

重点目標 チャレンジする子、かかわりを楽しむ子

学年	評価項目（各学年の指導・取組の重点等）	自己評価	学校関係者評価委員会の評価		
0 歳 児	<p>○生活リズムを大切に、安心感の中で過ごす</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な保育教諭に思いや欲求を受け止めてもらいながら、愛着関係を築く。 安心安全な環境の中で、伸び伸びと過ごす。 身の回りの事に興味関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 月齢や生活経験に合わせて、安心して過ごせるようにゆとりを持って関わってきた。個々の対応となる為、担当保育教諭の連携を密にし、一人ひとりに合わせた丁寧な関わりができた。 ゆったりと関わる中で愛着関係を築く事ができた。 玩具の片付けやエプロンの片付けなど身の回りの事に興味を持てるようにした。喜んで取り組む姿が見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 一生涯で最も大切と思われる愛着関係を築く事ができたことは最重視すべきである。 一人一人に合わせた保育ができていたと思う。 	A
1 歳 児	<p>○自分の好きな遊びを見つけ、その遊びをじっくり楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心安全な環境の中で、伸び伸びと遊ぶ。 生活の中で、見る、触れる、真似る等の経験をし、人や物への関心を広げる。 身の回りの事に興味を持ち、少しずつ自分でやってみようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心した園生活が送れ、また自分の好きな遊びを見つけて遊べるよう個々の気持ちに寄り添いながら関わった。また、友達にも興味を持ち、遊びを真似したり簡単な言葉のやり取りをしたりする姿を見守った。 生活の中で子ども達の「やってみよう」という思いを大事にし、励ましたり、やり方を伝えたりする事で、身の回りの事に興味を持って自分でやろうとする姿も出てきた。 月齢や家庭状況によって発達に個人差が大きい。その為、一人一人に合わせた援助を意識してきた。また、職員間で話し合いをする事で情報共有をし、連携が取れるようにしてきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの事に興味を示したり、やってみようと思えるのは毎日安心できる園環境の中で過ごせて愛情を感じられたからだろう。 個人差への対応が丁寧に行われている。 	A
2 歳 児	<p>○保育教諭や友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知り、かかわりを深めていく</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心して生活を送る中で身の回りの事を自分でしようとする。 保育教諭や友達とのかかわりの中で、一緒に過ごしたり遊んだりする心地よさや楽しさを感じる。 好きな遊びを見つけて伸び伸びと自分なりに楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心して生活出来るように、一人一人と丁寧にかかわるように心がけた。また、自分で出来るようになるように少しずつ自分で行う事を増やすようにし、やり方を伝えると共に、出来たことに対して沢山褒め、自信につながるように心掛けた。3学期には自分で出来る、と張り切って生活している。 一緒に遊びながら、近くで遊ぶ子ども達の気持ちを代弁し、交流が持てる様にしてきた。次第に気の合う友達の様子に興味を示し、誘い合っ一緒に遊ぶようになり簡単なやり取り等、楽しさを味わっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の回りの事が出来た時にたくさん褒める等、自信が持てる関わりをしていた事がいろいろな事に挑戦したいという意欲に繋がっている。 	A

満 3 歳 児	<p>○保育教諭や友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> 好きな遊びを見つけて、伸び伸びと自分なりに楽しむ。 保育教諭や友達と一緒に過ごしたり、遊んだりする心地よさを感じる。 安心して生活を送る中で、身の回りの事を自分でしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心して生活を送れるように、一人一人と丁寧にかかわるよう心掛けた。また2月に最後の入園者を迎え、その子の発達段階に合わせて、やり方を伝える等個別に対応をしてきた。たくさん褒めたり、励ましたりする事で、自分の事は自分で行う等やる気や自信を持って生活を送るようになった。 友達や保育教諭と一緒に遊びながら、気の合う友達と遊ぶ楽しさを感じ、誘い合ったり、会話を楽しんだりしながら、遊ぶ姿が見られる様になった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 次々と入園する中で、楽しさもあり、難しさもあり、と想像される中で安心と自信を育む関わりが大切である。 	A
3 歳 児	<p>○友達や保育教諭と楽しく園生活を送る</p> <ul style="list-style-type: none"> 好きな遊びや安心できる場所を見つけて楽しく遊ぶ 身近な環境(人的・物的)に関心を持ち、その子なりにかかわろうとする。 自由な表現を楽しみ、豊かな感性を育む。 集団生活に必要な習慣やルールを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の自立に対して個人差が大きい時期の為、個別に寄り添いながら援助し、少しずつ習慣となり自分で出来るようになってきた。 保育教諭や友達と信頼関係ができ、安心して自分を表現しながら遊べるようになってきた。 生活や遊びの中で相手の思いに気付き、譲り合ったり助け合ったりする姿が見られる様になってきた。 好きな遊びを十分に楽しめる様、様々なコーナーや玩具を用意した。遊べる時間を十分に確保する事で主体的に遊びを楽しめるようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 既入園と新入園の子どもたちが新しいスタートを切る3歳児クラスが日に日に落ち着いていく様子が感じ取れる。 発達状況に応じた主体的な活動が行われている。 	A
4 歳 児	<p>○友達と夢中になって遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな遊びや生活の中で、友達とかかわりを持ち、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 身近な自然に興味を持ったり、気付いたり、観察したりしながら遊びや生活に取り入れる。 生活の中で自分の思いを言葉や態度で伝えたり、相手の思いに気付いたりして友達とかかわりを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に遊ぶ中で、教え合ったり助け合ったりする姿も見られるようになっていった。遊びを通して友達とかかわりが深まっていった。 野菜の栽培を行う事で、形の変化や色の変化に気付き、育てたものを収穫し味わう事も楽しんでた。 虫に興味を持ち、園庭で探したり、捕まえた虫を飼育し観察したりしていた。また、虫を図鑑で調べながら、身近材を使って虫を制作する遊びから、作った虫を使ってのゲーム遊びに発展した。 友達と遊びを考えたり、ルールを確認したりする中で、自分の考えを相手に伝えると共に、相手の言葉にも耳を傾ける姿が見られた。この繰り返しをしていきながら、「友達」との仲も深まっていったように感じた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 園庭での野菜の栽培、虫探し、飼育、観察、図鑑調べ…と子どもたちの興味が豊かに発展していく様子が伝わる。 自分の気持ちを伝えたり相手の話に耳を傾けたり、言葉を介して伝え合う姿が素晴らしい。 	A
5 歳 児	<p>○遊びを通して協同性を培う</p> <ul style="list-style-type: none"> やりたい事の実現に向けて友達と話し合い、協力したりして最後までやり遂げようとする気持ちを持つ。 自分達で遊びや生活を主体的に進めていく中で、就学に向けての自覚や自信を持つ。 気持ちを伝えながら、友達とかかわりを深めていき、思いやりの気持ちを持てるようにする。 自然に対する興味を深め好奇心や探求心を育み親しんでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 夜まで幼稚園、生活発表の日など幼稚園の主な行事において子ども達が主体的に「何をやりたいか」企画し、サークルタイム等を重ねながら実現に向けて準備をし、実現させてきた。こうした活動を経験するたびに、自分達が楽しむだけではなく、見てもらう人の事まで考えたアイデアが生まれた。卒園遠足での動物園では、動物について疑問に感じた事、それについて調べた事、実際に現地に行き知った事を保護者の方にも発表したいとグループで資料をまとめ参観会で披露したことは、今後「自分から学ぼうとする」1つのきっかけになるような大きな成長が見られた。 遊びや活動の中で、互いを「思いやる」気持ちが大事に出来る様保育教諭も子ども達にあたたかい言葉がけを常日頃心掛けていった。けんかして仲直りする事を繰り返す中で、社会性を学んでいけるような仲介を心掛けていた。 飼育当番を行う中で、生き物に対する愛情が膨らんでいたり、野菜の栽培でその生長から食育を楽しんだりして、子ども達自身が図鑑を持ち出し知りたい事を知ろうとする姿も多く見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「年長児」として園活動全体をリードしていく様子には飛躍的な成長が感じられ、社会性も育てられている。 友達と相談をしながら子ども自身で主体的に活動や遊びに取り組んでいる姿が見られた。 	A

2 各指導部等にかかわること

	評価項目（各指導部等のねらい・取組等）	自己評価	学校関係者評価委員会の評価		
1 安全・ 保健管理	<p>○様々な場面を想定して避難訓練や非常食訓練等を定期的に実施し、子どもの安全確認や意志向上に努める。また、不審者訓練も取り入れ、子ども達の安全管理を徹底していく。</p> <p>○AED 研修を行い救急への意識を高める。</p> <p>○地域、家庭との保健に関する情報交換を綿密に行い、流行性の疾患情報の開示を随時行う。</p> <p>○食物アレルギー等、子ども一人一人の健康に配慮した保健指導を行い、給食業者との連携を図っていく。</p> <p>○定期的な遊具の点検と園庭の安全管理を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・警察の方に不審者への対応方法、訓練の仕方を教わり、不審者訓練を実施した。訓練の中で反省点も多々出てきた為、来年度は反省を活かして訓練を行っていくようにする。 ・地震、火災、洪水の訓練は引き続き子ども達と行き、訓練の大切さを伝えていく事が出来た。 ・AED の使用方法は全職員が研修を受けた。消防職員からAED の使い方だけでなく、心肺蘇生方法や誤飲の対応方法も教わる事が出来た。 ・流行性の病気の感染状況により、保護者に状況を伝えたり感染対策をしたりして、まん延しないよう努めた。 ・昨年度に引き続き、歯磨き指導や交通安全教室を行い子ども達に健康や安全が意識出来るようにした。 ・遊具の点検は毎日、職員の目視で行った。遊具の劣化や破損を見つけ次第、業者に修理を頼んだり撤去する等して、子ども達が安心安全に遊べる環境を保つようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から訓練をしている為、実際の地震の際にも子ども自身で考えて行動できていた。毎日の生活の基盤である安全管理、保健管理があらゆる面から丁寧に実践されている。 ・不審者対応やAED 講習等は希望する保護者も参加できるようにすると更に良いのではないかと。 ・保育教諭のメンタルヘルスについても配慮を継続して行ってほしい。 	A
2 運営組織	<p>○職員同士の連携・協力体制を確立するため、職員同士の相互理解に努める。</p> <p>○ICT の更なる活用により情報共有を迅速に行ったり、リモート研修に積極的に参加したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の成果を他の職員も共有できる体制を整える。 <p>○会議は計画的に効率よく行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士の連携・協力体制の為に同僚性の大切さについて研修で話し合った。相手の性格や考え方等の人間性について十分理解しお互いを尊重し合うことで共感、安心感が得られる。改めて一緒に考える仲間の存在が職員同士の繋がりを強くしていくことを各々が再確認して相互理解に努めている。 ・毎日の記録を保育後のノンコタクトタイムにパソコンでドキュメンテーションを作り、勤務時間内に記録を行う日が増えたが内容については今後も引き続き勉強し、深めていきたい ・会議は資料を精査し簡潔にすることで時間短縮になり、仕事の効率化につながっている。 <p>課題としては、司会の職員が話し合う視点を絞って進行していくことがある。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の連携・協力の為に新しい取り組みやより良い方法を模索していこうとする思いが感じられる。特に「ノンコタクトタイム」や「ドキュメンテーション」は試行錯誤しながら進めようとしている姿勢が見られ、来年度に期待したい。 ・記録は作った後も徐々に役に立っていくのでその深まりを探求していくのも一つの観点として良いのではないかと。 	A

<p>3 研 修</p>	<p>○重点目標「チャレンジする子、かかわりを楽しむ子」を目指し園内研修に取り組む。保育記録をもとに園庭環境について考えながら次の保育に生かせるように考察し実践していく。</p> <p>○たちばな幼稚園との合同研修会や外部研修会等に意欲的に参加し、スキルアップを図るとともに、保育の質の向上に繋げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各月保育日誌を持ち寄り、園庭における遊びの現状と課題を話し合う中で、より良い環境作りを3歳児以上グループ、満3歳児以下の担当グループに分かれて話し合っていた。 ・話し合った事が、すぐ実践に繋がられる様、今の子どもの遊びに必要な道具や場所を整えられる様に共有と分担をしていった。ただ、子どもの興味関心は日々変化するものであったり、準備に時間を要する事もあったりして、対応しきれていない部分もあり、そこが課題の一つである。 ・同じテーマで研修を行っていたたちばな幼稚園との合同研修は有意義であった。また、外部研修も各々で参加する機会が増えていった。非常勤職員も含めた職員研修も行い保育の方向性を確認したり、大勢いる職員がゆっくりとお互いに語り合ったり出来る良い機会となった。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味関心、挑戦心の芽生えを的確にキャッチできているからこそこの課題発見だと思う。 ・学ぼうとする姿勢は十分に感じられ努力も見られる。実践に生かそうとする姿勢を高く評価したい。 ・今後も研修が定番化しないよう新たな研修の在り方に挑戦して行ってほしい。 	<p>A</p>
<p>4 家 庭 ・ 地 域 と の 連 携</p>	<p>○各家庭に保育の様子を発信し、保育への理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに、園全体の遊びの様子を載せ、広く園のこを知らせてもらえるようにする。 ・保護者のみが見られる鍵付きの項目の中では、学年毎、日常の様子や行事への取り組み等、日々の子どもの気づきや成長を伝え保育理解に繋がられるよう工夫する。 <p>○保護者の声に耳を傾け、信頼関係を築く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者がいつでも相談しやすい関係作りを心掛ける。 ・気になる子に対して、園での姿をこまめに伝えながら特別支援コーディネーター同席で面談を行ったり、他機関と連携を図ったりしながら、子どもにとって過ごしやすい環境を保護者と一緒に考えていく。 <p>○地域にこは幼稚園を知ってもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「とことこクラブ」を年13回開催予定。未就園児が親子で楽しい時間を過ごせるよう各回内容を工夫する。 ・在園児や在園児の保護者とも交流をしながら、こは幼稚園を知ってもらう機会とする。 ・近隣散歩の際等、地域の方と挨拶をしたり交流したりすることを大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、ブログを月2回以上アップする事を目標としていた。行事前の取り組みの様子は更新回数が多かったが、学年や月により回数に差が出てしまったところがある。 ・保護者アンケートの結果からも、発信に満足しているとの回答が多かった。今後もコンスタントに園の様子をお知らせできるようにしていきたい。 ・PTAとのコラボ企画を、10月から全6回実施した。保育時間ではない夜や休日に、親子で他の家族との交流もしながらわくわくする時間を提供する事が出来た。次年度も、参加者楽しめるような企画をPTAと一緒に考えていきたい。 ・気になる子の保護者に対し、園での姿を丁寧に伝える事を心掛け、保護者と療育施設と連携する事が出来ていた。保護者同士のネットワーク作り取りして、おはなしの会を初めて開催し、今後に繋がっていくスタートとなった。 ・「とことこクラブ」へは、毎回参加して下さる方も多くいた。園内見学や音楽遊びの会は人気があったので、来年も実施する予定である。1歳児の問い合わせも多かった。園庭遊びの環境や、室内遊びの機会を作るなど、内容の工夫も行い、親子で楽しく過ごす中で、園を知っていただく機会としていきたい。 ・地域連携では三ノ宮神社のお祭りや刑務所の矯正展に参加しダンスを披露してイベントを盛り上げるお手伝いをした。 ・近隣散歩の際には地域の方に進んで挨拶できる子も増えている。 ・一般の方にも広く幼稚園を知っていただくことを目的として、7月よりインスタグラムを始めた。少しずつ浸透してきている為、園の魅力発信ツールとして活用していきたい。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に参加する事で子どもたちの経験にもなり、地域の方にとこは幼稚園の事を知ってもらうことができるのでいい機会だと思う。 ・ブログの回数を増やしたり、インスタグラムを始める等、保護者や地域の方も園の様子を見ることができてよかった。 ・時間外の交流活動、気になる子への対応等の様々な取り組みが保護者の信頼関係構築に大きく貢献していると思うが、保育教諭の負担軽減を図る取り組みも心がけてほしい。 	<p>A</p>

<p>5 常葉 大学 内 連 携</p>	<p>○たちばな幼稚園との研修や交流。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両園合同研修会を行い、その中での気づきを保育に取り入れたり情報交換をしたりすることによって、質の高い保育を目指す。 <p>○橘小学校との交流、学校訪問。</p> <p>○中学、高校、短期大学部、大学の実習生受け入れやパイプ強化。</p> <p>○大学、高校等での授業を行い、育成に携わる。</p> <p>○短期大学部、保育学部との共同研究の推進。</p> <p>○他学校施設の活用。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・両園の園内研テーマが共通している事から、今年度はお互い学んだことや実践例を持ちより、より学びを深め質の高い保育を目指していく事が出来た。また、職員同士の交流ももっと大切にしていきたいと来年度についても目指すところを共有している。 ・短大の先生に、泥団子についてレクチャーをお願いし、園庭での泥団子の作り方を教えていただいた。 ・年長児が11月に、橘小学校に訪問。1年生との交流等で、小学校への期待も高まった。 ・橘高校のTPRプロジェクトの協力施設として今年度より参加。 ・常葉大学との「とことこの森」に年長児が参加し交流等楽しんだ。 ・園のイベント「ペットボトルツリー」の準備として学生にもペットボトル回収の協力をしていただいた。 ・短大実習講義や常葉高校連携講座等授業を行う。 ・多くの実習生を受け入れている。本園を知ってもらうため、学生向けに「OPEN ところ」と称して11月から毎月2回見学日も設けたが本園への就職には繋がっていない。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常葉大学保育学部との連携が相互に実りをもたらすよう一層深い体系的な連携活動を思案していきたい。 ・大学や短期大学部との連携で昔ながらの良さを保ちつつ、新しい時代を生きる子どもたちにどのような事を伝えていくのか等、常に新しい保育に実践を期待している。 	<p>A</p>
--	--	---	----------	--	----------

*A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが、成果が十分でない D 取組が不十分である